

平成 29 年度

川崎市立中学校 学習状況調査 報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 渡邊 直美

本市では、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」第1期実施計画に基づき、学校教育や社会教育をめぐる様々な課題の解決をめざし、キャリア在り方生き方教育の推進、中学校給食の完全実施、地域の寺小屋事業の展開など様々な教育施策を推進してまいりました。現在、第1期実施計画の取組を検証するとともに、これまでの教育施策を着実に継承し、さらに発展させ、本プランの基本理念及び基本目標を実現するために、平成30年度からの4年間を対象とした第2期実施計画を策定しております。

さて、少子高齢化や技術革新、グローバル化の進展など引き続き社会が激しく変化する中で、子どもが抱える課題の複雑化や社会・家庭の状況の変化、またそれに伴って学校に求められる役割は増大しております。そのような中、平成29年3月に学習指導要領が改訂され、これまでの学校教育の実践や蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すことや、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視することが示されました。

そのため、各学校においては、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、学校教育目標を含めた教育課程の基本方針を家庭や地域と共有し、その連携及び協働のもとに教育活動を充実させていくことが求められております。

川崎市学習状況調査は、各学校が生徒一人ひとりの学習状況を正確に把握し、指導方法や教育課程の検証・改善をすることなどを目的に実施しております。今後、学校教育に期待される役割が益々大きくなる中で、学校が組織として働き、教育効果の最大化を図るためには、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程を編成する必要があります。各学校におかれましては、教育課程を評価・改善する際の資料として本報告書をご活用いただきたいと考えております。

結びに、本調査の運営・実施にあたりご尽力いただきました中学校現職教育委員会をはじめとする中学校長会の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年度「川崎市立中学校学習診断テスト」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会
会長 安部 賢一

平成29年3月に学習指導要領が改訂され、「各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創育工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、生徒に生きる力を育むことを目指す」ことが示されました。

川崎市では、教育に関する総合計画「かわさき教育プラン」を策定し、さまざまな教育施策を展開しております。「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばす」ことは「かわさき教育プラン」における大きな柱であり、川崎市立中学校学習状況調査は、本市の子どもたちに確かな学力を育むための事業の一つとして位置づけられております。

川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度より校長会の委託事業として市内の全中学生を対象に始まり、今年度は50回目の実施となります。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」に則り、2年生については川崎市立中学校学習状況調査として5教科のテストとともに、生活や学習についてのアンケートもあわせて実施しています。

その目的といたしましては、「学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標及び内容の『基礎的・基本的な知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査するとともに、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒が自分の学習状況や課題を把握すること」としております。

このような趣旨に則り、テスト問題につきましては、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に分けて作問、分析し、2年生は個人票、1、3年生は、自己分析カードにより、生徒が学習状況を振り返り、主体的に自分の目標や課題をもって学習を進めることができるようにしております。また、報告書では、各設問を分析、考察し、今後の指導にあたっての改善点等をまとめております。

各学校におかれましては、自校の状況を把握し、学習指導や教育課程の編成等の検証・改善の資料として活用することにより授業改善の取組を進めていただければと存じます。

最後になりますが、学習診断テストの実施に際しまして、ご尽力いただきました、川崎市教育委員会、校長会現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様には多大な労苦をおかけしました。心より感謝申し上げます。

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	9
誤答分析と学習指導上の考察	1 2
2. 社会	2 9
誤答分析と学習指導上の考察	3 2
3. 数学	4 9
誤答分析と学習指導上の考察	5 2
4. 理科	7 1
誤答分析と学習指導上の考察	7 4
5. 英語	9 1
誤答分析と学習指導上の考察	9 4

III 生活や学習についてのアンケート

調査の概要	1 0 9
調査結果と分析	1 1 0
単純集計	1 1 0
クロス集計	1 2 3
各教科の正答率との相関	1 3 1
資料 調査結果集計表	1 3 4

IV 問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙

国語	1 4 5
社会	1 7 8
数学	2 2 1
理科	2 4 1
英語	2 8 4
生活や学習についてのアンケート	3 2 0

I 調査の概要

1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象人数

(1) 調査実施日

平成 29 年 11 月 14 日（火）

(2) 調査対象人数

中学校 第1学年	9,692 人
中学校 第2学年	9,671 人
中学校 第3学年	9,863 人

Ⅱ 調査結果の概要

